

付度し 言葉を磨き 大人になる
[平成 29 年度 2 学期終業式校長あいさつ]

平成 29 年は国際的に見るとアメリカのトランプ大統領就任で始まり、北朝鮮との関わりが大きく取り上げられ、国内では衆議院選挙、森友学園、加計学園騒ぎなどで国会が揺れる中、大人の騒ぎと反対に若者の活躍が注目されました。将棋界では藤井四段の 30 年ぶりの 29 連勝や、スポーツ界での中高生の活躍、さらにバドミントンや卓球、スピードスケートなどに象徴されるように世界で通用しないといわれた競技での若い日本人選手の躍進が注目を集めた年でもありました。

今年を表す漢字は『北』、流行語大賞には『付度』と『インスタ映え』が選ばれ、北朝鮮を巡る問題や、森友学園や加計学園騒動、そして SNS の新しい流行が国民に影響を与えたということでしょう。アメリカと北朝鮮の関係は、アメリカ大統領が「ちびのロケットマン」などと北朝鮮最高指導者を表現するのに対し、北朝鮮側は「アメリカの老いぼれ男を必ずや火で罰する」と反撃し、周りからは幼稚園児のケンカと揶揄されています。これらが国家の最高責任者である人のツイッター上で行われていたり、取材に対する直接の言葉として放送されているという状況に耳を疑います。

『付度』という言葉は、私たちの生活で普段あまり使われる言葉ではありませんが、森友学園騒動の答弁で話題になりました。元々の意味は相手の気持ちを推しはかること、相手が何を言いたいのか考えることのようなようです。森友学園問題で、官僚が関係者の意向を推しはかったという意味でこの言葉が使われたことから、上の人の意向を推察してその人の都合にあわせて考えるなどの何だか悪い意味になってしまったような気がします。政治の世界では、政治家の発言がたびたび問題になっています。同性パートナーを連れだしたのは皇室行事に入れぬ。(アフリカ支援を) あんな黒いのが好きなのかなど人権意識を疑うような発言が繰り返し報道されてきました。

近年のこのような国のトップによる暴言、政治家による人権無視の風潮は、SNS がこの傾向に拍車をかけているという人もいます。事実、SNS では高齢者、在日朝鮮人、震災等の被災者の方々に対し、人間性を疑う書き込みがされているような状況にあるようです。SNS で他人を攻撃する人の基本的な特徴としては、自分は優れた人間で常に自分が正しいと考えていて相手を見下す態度をとり、相手を理解しようとする気持ちはなく、相手が傷つこうが攻撃の手を緩めることはない、ということのようです。SNS は、匿名での書き込みが可能で、自分の正体を隠したまま特定の相手をこき下ろす言葉を投げ込むことができます。これらことから、ネット上での礼儀やマナーや道徳性が失われているという場合が実際に今の日本社会にはあるということです。ネット上で公然と語られる人間性を疑うような言葉は、本人のみならず社会そのものに影響を与えます。学校という組織でこのような人間性を疑う言葉が氾濫すると、学校文化そのものに影響を与えるということです。言ったことに対して責任をとるのが大人の態度であるのに対し、ルールやモラル、人権を無視した言葉が当たり前ようになっていく風潮にある現代社会は恐ろしさすら感じます。生徒の皆さんには、出された言葉が正しいのかそれとも間違っているのかを正しく認識して、正しい判断をする、そして正しい対応をとることを常に心がけてほしいと願っています。これは日本人がこれまで大事にしてきたことで、マナーの良さや道徳性の高さが日本人の美德として国際的にも評価されているものだと思っています。日本人が大事にしてきた美しい言葉や、言葉を磨くというのは、思考・考えを磨くということで、言葉を磨くことが、大人になっていくということです。ネット上には他人に対する思いやりや、励ましなどの言葉があふれていることも確かです。人に対する思いやりや気遣いが今年流行した『付度』であるなら、ぜひそのような態度で、言葉を磨いてこれからの人間関係を築いてほしいと思いますし、それぞれの人間としての価値をこれからも高めていってほしいと思います。

明日から 17 日間の冬休みです。この休みの間も部活動だったり研究活動だったり、登校したり遠征に出かける人も多いのではないかと思います。3 年生は残り 2 ヶ月ほどで卒業式を迎えます。平成 29 年から平成 30 年という新しい年を迎える休みでもあります。それぞれが新しい年にむけて夢と希望が持てるよう明確な目標を定めてください。その目標は、肯定的に設定し、達成されたとき自分がどうなっているかをイメージしておくことと、手書きで書き出すことです。「こんな自分になりたい」と決心しなければ、絶対に今の自分を変えられません。自分の考えや目標・目的をしっかりと紙に書いたりリストを持つこと、これが大事です。